

熱中症に対する医療等の充実について(案)

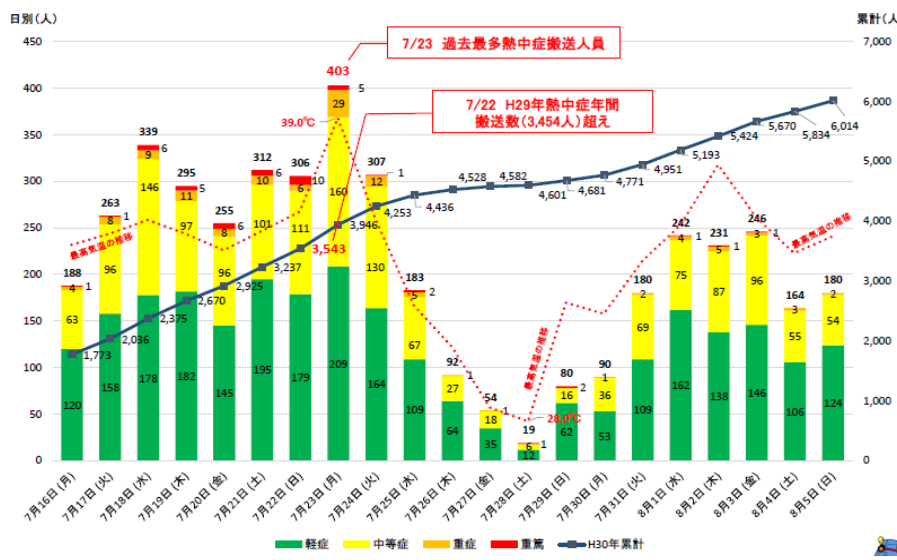
1. 熱中症救急搬送患者の発生状況(平成30年)

○1日あたりの熱中症救急搬送患者数(平成30年7月~8月・東京消防庁所管分)

月	最高気温	日数	総数	程度別							
				軽症	中等症	重症	重篤				
7月	35℃以上	5日	301.6人/日	165.8人/日	55.0%	119.2人/日	39.5%	11.8人/日	3.9%	4.8人/日	1.6%
	39.0℃(7月23日)		403人/日	209人/日	51.9%	160人/日	40.0%	29人/日	7.2%	5人/日	1.2%
	31℃以上35℃未満		19日	139.4人/日	84.7人/日	60.8%	49.4人/日	35.4%	4.2人/日	3.0%	2.9人/日
7月	31℃未満	7日	32.3人/日	21.1人/日	65.5%	10.7人/日	33.2%	1.0人/日	3.1%	1.0人/日	3.1%
8月	35℃以上	7日	174.1人/日	113.7人/日	61.5%	56.6人/日	36.2%	3.0人/日	1.9%	1.2人/日	0.5%
	37.3℃(8月2日)		231人/日	138人/日	60.0%	87人/日	37.7%	5人/日	2.2%	1人/日	0.4%
	31℃以上35℃未満		16日	87.3人/日	56.9人/日	66.9%	28.9人/日	31.4%	1.9人/日	2.0%	2.0人/日
8月	31℃未満	8日	15.1人/日	8.8人/日	57.9%	7.1人/日	47.2%	1.0人/日	6.6%	0人/日	0.0%

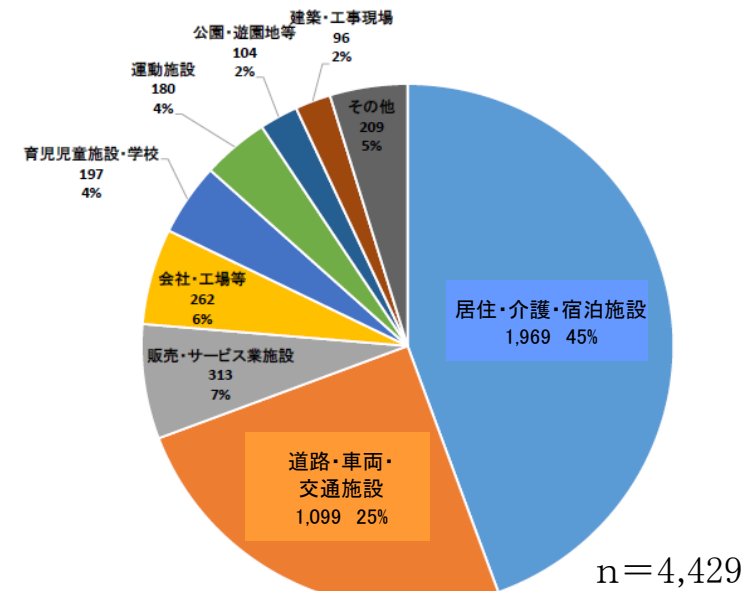
① 熱中症の発生状況 日別・程度別

(平成30年7月16日~8月5日 東京消防庁救急搬送患者数速報値)



② 熱中症の発生場所

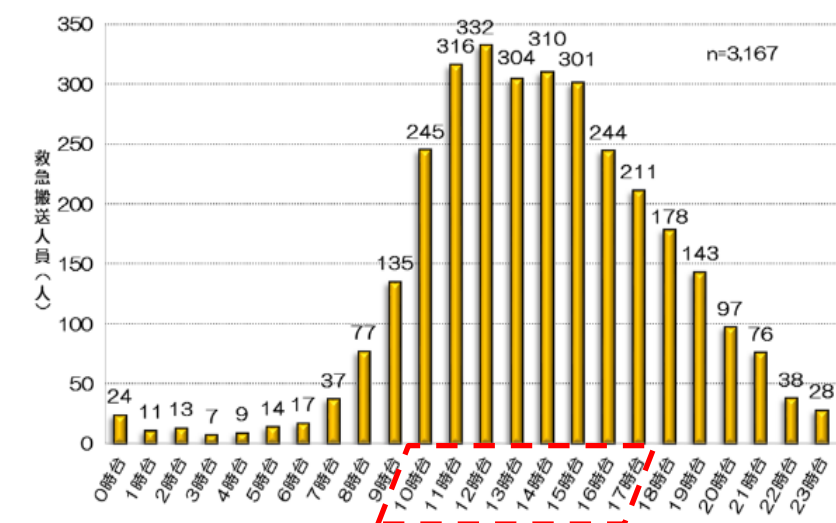
(平成30年7月16日~8月5日 東京消防庁救急搬送患者数速報値)



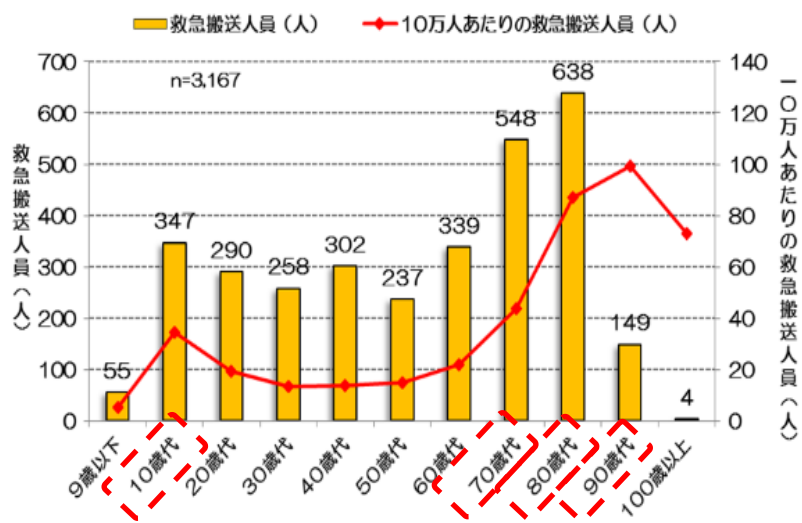
【参考】① 非労作性熱中症: 高齢者を中心に日常生活のなかで屋内で発症。重症例が多い。
② 労作性熱中症: 健康な人が短時間で発症。重症例は少ない。

【参考】時間帯別・年代別の熱中症救急搬送患者数(平成29年6月~9月・東京消防庁所管分)

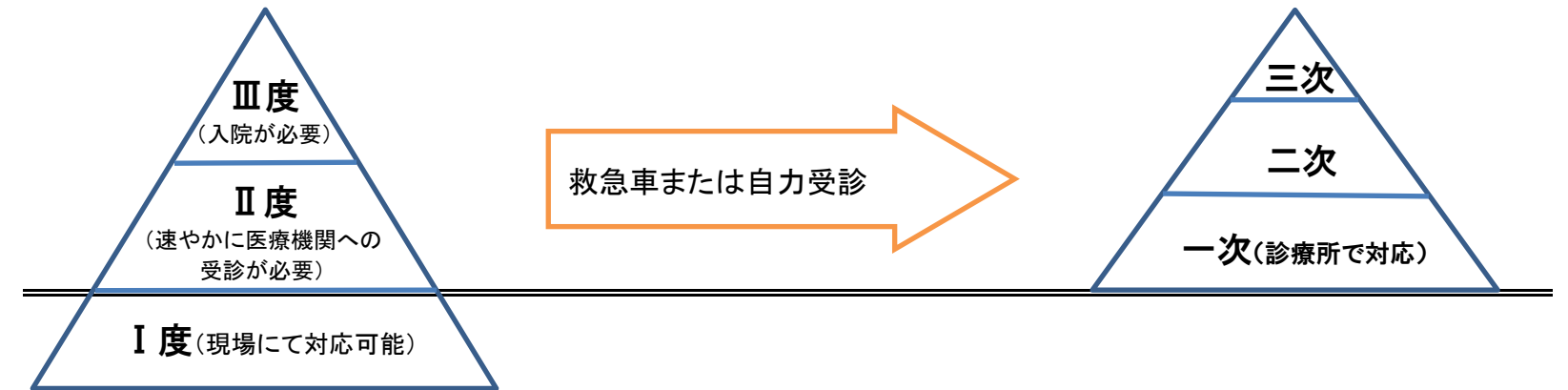
① 時間帯別の救急搬送人員



② 年代別の救急搬送人員



2. 把握すべき項目



【熱中症診療ガイドライン2015(日本救急医学会)】

- 気温と熱中症発生状況
- 発生時間・発生場所・原因
- 重症度(I・II・III)の割合
- 年代別の患者数・重症割合

- 来院手段(救急車搬送数、自力受診者数)

- 診療時間
- かかりつけ患者の割合
- 入院割合
- 医療処置・診療に要した時間

内容: 本年7月17日(火)~7月23日(月)に熱中症関連で受診した患者について把握

- ① 診療年月日 → 最高気温と熱中症発生数の関連
- ② 性別・年齢 → 性別・年代別の熱中症発生状況
- ③ 診療時間 → 日中帯・夜間帯における診療状況
- ④ 発生時間・発生場所(屋内・屋外)・発生原因(運動など)
- ⑤ 事前連絡の有無(かかりつけ医への連絡)
- ⑥ 来院手段(救急車、自力、その他) → 救急車と自力受診の割合
- ⑦ 初診患者・かかりつけ患者の割合
- ⑧ 重症度(I・II・IIIの年齢別割合)
- ⑨ 転帰(帰宅、入院、死亡(入院後死亡含む)) → 入院割合
- ⑩ 医療処置(酸素吸入、冷却、輸液、その他)
- ⑪ 診療に要した時間(分)
- ⑫ 院内における課題(自由記載)

有識者の意見を踏まえ、調査項目を検討

3. 今後検討すべき事項

- ① 今夏の猛暑時における熱中症の発生状況や医療機関の対応状況等に関する分析
- ② 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、今後の熱中症に対する救急医療体制等